

# 市民病院の道しるべI～VI

こんな診療もしています

問合先 市民病院 ☎06・3171

女性専用の内科外来？

傷跡をきれいにする診療？

抜糸しない手術？

病理検査専門医師がいる？

画像診断専門医師がいる？

患者が一番多い科？



西尾市民病院  
院長 瀬田政隆



院長に就任して7か月が過ぎました。課題山積ではあるものの「市民病院は、変わらなければならぬ」との思いで改革を進めております。そして、最近少しずつ変化が見られるようになりました。

例えば、7月の救急車搬入患者数は医師をはじめとする病院スタッフの努力により、過去最高の404人（1日平均13人）となりました。これは昨年7月の1・3倍を超え、市消防本部からの搬入率は、本院のマンパワーとしてはほ

ぼ限界である全搬送患者数の3分の2となりました。

また、麻酔科医師の増員により、11月からは常勤麻酔医が3人体制（6月までは1人体制）となり、今までより緊急手術などの対応も容易となります。引き続き医師の確保に力を入れ、地域医療を充実させてまいります。

さて、今号では現在本院で行っている診療の中でも、意外と知られていないことについてスポットを当て、ご紹介いたします。

# I 市民病院

内科に女性専用の外来があります



当院では女性  
性が気軽に  
受診・相談  
できるよう  
に、診察・  
検査など全  
て女性スタ  
ッフが担当  
しています。

女性の心  
と体を総合  
的に診る医  
療を目指し  
て、8月か  
ら「女性内  
科外来」を  
開設しまし  
た。女性外  
来とは、女性によく起る体  
の疲れや心の問題、どこの診  
療科に行けばいいのかわら  
ない体調不良、不安や疑問な  
どに答える健康相談の窓口と  
して設けられました。



内科 都筑正美

女性はホルモンの働きも、かかりや  
すい病気も、ココロのあり方も男性  
とは異なります。当院では、時間を  
かけて診察や相談ができるように予  
約制としています。気軽にお電話く  
ださい。

# II 市民病院

形成外科は傷跡をきれいに  
するための治療も行っています

形成外科は、なじみがない  
ため知らない方も多いのです  
が、主に体の表面にある疾患  
の治療を行います。例えば、  
「下がったまぶたを上げたい」  
「あざやシミ、ほくろを取り  
たい」「傷痕をきれいにした  
い」などの症状では形成外科  
が診療にあたります。そのほ  
か、顔の外傷やケロイド、乳  
がんなどで取り除いた乳房の  
再建、悪性腫瘍に関連する再  
建、顔面神経麻痺<sup>＊</sup>など多岐に  
渡っています。他科とも連携  
しながら、丁寧に診察します。  
また、肌の老化に対し、ア  
ンチエイジング（老化防止・  
若返り）のためのスキンケア  
外来を行  
っています。  
予約  
制で自費  
診療にな  
ります。

▶UVカメラで隠れた  
シミを撮影した画像



形成外科部長 木内達也

シミやソバカス、小じわ、赤ら  
顔、ニキビ、ニキビ痕などスキ  
ントラブルの相談も気軽にご利  
用ください。必要に応じて女性  
医師が対応します。

### III 市民病院

外科の手術では、ほぼ抜糸を  
しない手技を行っています

外科の常勤医師は7月から1人増員されて6人体制となり、全員10年以上の経験を持つベテラン医師です。

外科の手術では、赤外観察カメラシステム（肉眼では見えない近赤外像を観察するビデオカメラ）を使い、組織表面下の血管やリンパ管の動きをリアルタイムで観察しながら行います。また、ほぼ抜糸の必要のない手技を行い、患者の負担を極力減らすように努めています。24年度は441件の外科手術を行いました。



抜糸は苦痛を伴います。抜糸の必要のない手技は、術後に行う抜糸が不要になるため苦痛もなくなります。



外科部長 上村孝法

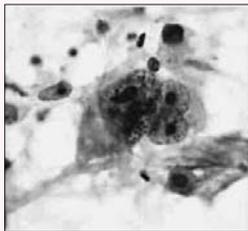
### IV 市民病院

がん細胞などを病理診断する  
専門の常勤医師がいます

各科が依頼する検体の病理診断をする科が病理診断科です。病理専門医と臨床検査技師が協力し合い、病理組織検査（年間約3000件）、細胞診（年間約4000件）、病理解剖（年間約10例）を行っています。

悪性腫瘍として治療するための最終診断をするため、誤診は許されません。そのため、名古屋大学病院や名古屋第一赤十字病院、第二赤十字病院の病理部門と連携しながら、ダブルチェックで診断の精度向上に努めています。迅速な報告も心掛けており、通常1週間以内には担当医に結果を報告しています。

▶甲状腺がんの細胞像



顕微鏡という眼を持つ病理医の仕事として、術中迅速診断も行っています。がんの摘出手術などの時に、がん細胞の取り残しがないかを顕微鏡で確認します。



病理診断科部長 伊藤真文



CTやMRIの画像を診断する  
専門の常勤医師がいます

各科の依頼によるCTやMRIなどの検査画像を診断して、主治医に診断結果を報告している放射線診断専門医です。院内だけでなく、地域の医療機関からの依頼にも応じています。24年度の依頼件数は、958件でした。

最新鋭のマルチスライスCTを2台(64列・80列)導入したことで、短時間で精密な撮影ができるようになりました。そのほか、局所麻酔をすることで患者さんに与える負担が少ないIVRという治療法も行っています。画像を見ながら血管内にカテーテル(細い管)を入れたり、体内の病変に、体の表面から針やチューブを誘導したりして行う治



療です。また、がん治療の一つとして、切らずに治す放射線治療も行っています。

IVR(放射線診断技術の治療的応用)専門医でもあり、年間100件以上担当しています。当院は、県内では数少ないIVR専門医修練施設に認定されています。



放射線科部長 高井勝文



初診や紹介患者さんの  
一番多い科は消化器内科です

当院に開業医などから紹介いただいた患者の件数は、24年度で8405件ありました。その中で一番多い科は、1157件の消化器内科でした。

消化器内科は、胃、大腸、肝臓、膵臓、胆道系の病気を診療する科です。また、関心が高まっているピロリ菌除菌も行っています。最近では技術が向上し、ファイバースコープの管も細くなり、苦痛も少ない内視鏡検査ができるようになりました。

ここ数年、大腸がんの症例が増えていますので、検診で便潜血反応が陽性のときは、大腸内視鏡検査を勧めています。通常の検査は10～20分程度で終わります。

肝臓病はインターフェロンなどの治療薬が進歩したため、C型肝炎の治療率も向上しました。

当院は画像診断専門医や病理診断専門医が常勤でおり、外科医も充実しています。そのため、早期診断・早期治療が可能となり、消化器内科の初診患者も多くなりました。



内科部長 長谷川太作